



ちょうようだより

【家庭数配布】

TEL422-0302 FAX437-1481

発信専用 070-6800-0649~0650 ・ 090-3904-9093 ・ 080-7469-3379

「共に学び、共に伸びる子ども」

【12月号】2021(令和3)年12月1日発行

修学旅行に行ってきました

11・12日に、無事、修学旅行を終えることができました。マスク着用、検温、手指消毒、一方向を向いての会食、バスレクの代わりに DVD 鑑賞など、平常とは違うこともありました。一人の体調不良者も大きなケガもなく、元気に全ての行程に参加し、無事に帰ってくることができました。



感染以外に心配だったことが、6年生にとってこれが「初めての宿泊」だということでした。初めは興奮しすぎていたのか集合しても私語が止まらない、集合写真に時間がかかるなどということもありましたが、そこはさすが適応力のある6年生。1日目は3か所を巡るかなりタイトな日程でしたが、後になるにつれ集団行動にも慣れ、宿舎での夕食や入浴もとてもスムーズでした。特にすばらしかったのが2日目の出発準備でした。その日は志摩スペイン村の入場数がかかなり多いという情報が入ったため、いち早く入場すべく、予定よりも早く宿舎を出ることになりました。起床して身支度、荷物の整理、部屋の掃除、朝食などを、大丈夫？ というほどの短時間ですることになったのですが、目標が定まってからの6年生の行動力は抜群でした。そしてなんと、スペイン村には一番乗り。お目当てのジェットコースターなども満喫することができました。

6年生保護者のみなさまには、不安な中での送り出し、準備や2週間前からの体調管理など、多くのご協力をいただきました。ありがとうございました。さあ、来年の修学旅行も今から楽しみです。

ここはちょっと任せてみよう



最近の子どもたちの様子で少し気になっていることがあります。大人に頼りすぎたり、任せすぎたり、甘えすぎたりということが多くことです。頼ること、甘えることは決して悪いことではないのですが、自分でやろうとせずに初めから「やって」とか、「やっという」と言うのはおかしいと思います。

その理由を考えたときに、これは大人の方にも責任はあるなと思いました。何かするとき、子どもに試行錯誤をさせながら一緒にやって、できたときにほめてあげたら、次も挑戦しようと子どもも思うでしょう。でも実際のところ、大人にそんな暇はないですね。それに大人は、最短の、最速の、最良のやり方を知っているの、「こうしたらいいねん。」とか、「こうしなさい。」とかつい、子どもに言ってしまいます。そして失敗したら「ほーら、やっぱり。だから言ったやん。」子どもからすると、「そんなん言うんやったらやっという！」

今、自分の子育てや学校で担任をしていたときのことを振り返って、もっともっと子どもに任せたらよかったと反省しています。ルールを引きすぎて、自分の枠に入れ込もうとして、子どもの自由な考えや本来の持っている力を伸ばしきれなかったんじゃないかな。引いてあげたつもりのルールが、先が見えないこれからの社会では、ぶつつり切れていることもあるんじゃないかな。もっと任せたらよかったな。

子どもに任せるって勇気がいることです。でも任せないと、主体性や自主性、自立心は育たないでしょう。「ここはちょっと任せてみよう」と大人が意識することも必要だと、自戒を込めて思います。まだ間に合うみなさん、できるときだけでいいです。ちょっとだけ子どもに任せてみてください。(池住 記)

校長先生クイズ 11月のクイズは、「ごはん給食のとき、学校では何合のお米をたいているでしょうか」でした。答えは「240合(36kg)」。500人弱の給食のこれだけのお米を洗うということを考えるだけで気が遠くなりますね。給食調理員さんに感謝です。